

---

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2017.11

国立国会図書館  
月報



憲政資料室の新規公開資料から

日本の絵本の歩み — 絵巻から現代の絵本まで

世界図書館紀行 Seven Stories: The National Centre for Children's Books

---

679号 2017年11月

---

# 国立 国会 図書館 月報

NO. 679  
NOVEMBER 2017

## CONTENTS

- 1 快傑レーニン  
——のちの首相が目撃したロシア革命  
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 4 憲政資料室の新規公開資料から
- 12 資料の世界の歩き方 中世の古文書を読んでみよう⑤  
「目の調子が悪くて……」  
ハンコ文化の誕生？
- 15 日本の絵本の歩み  
——絵巻から現代の絵本まで
- 25 世界図書館紀行  
Seven Stories:  
The National Centre for Children's Books
- 24 館内スコープ  
国際子ども図書館のさまざまな顔
- 31 本屋にない本  
『地域女性史シリーズ①』⑮
- 32 NDL Topics



表紙：  
『浴泉譜：版画』から「梨木 群馬県」  
前川千帆 画 アオイ書房 刊  
昭和16(1941)年 函版20枚 41×31cm  
<請求記号 428-101>  
図書館向けデジタル化資料送信サービス参加館でもご覧いただけます。

# 快傑レーニン

——のちの首相が目撃したロシア革命

はやし しゅんすけ  
林 瞬介

『快傑レーニン』

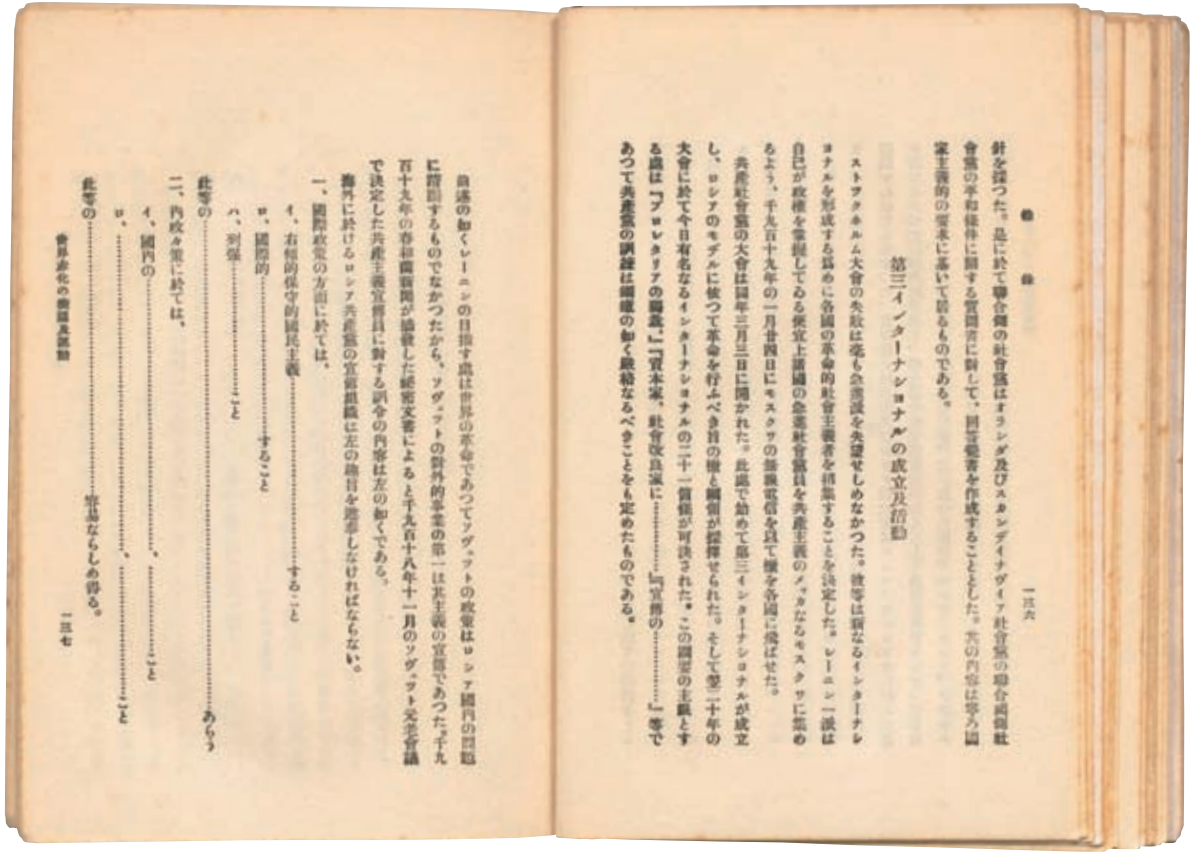
白雲楼学人 著 大日本雄弁会 発行 1924

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1877444>

国立国会図書館デジタルコレクションでご覧いただけます



今を去ること百年前の1917年11月7日、革命家ウラジーミル・レーニンに指導されたロシアの労働者と兵士が武装蜂起し、首都ペトログラード（現在のサンクトペテルブルク）の冬宮を襲った。ロシア革命の第二幕、十月革命の始まりである。世界初の社会主義革命を実現させたレーニンが亡くなるのはそれから6年後の1924年1月21日のこと。時に「レーニン死す」の報を受けた日本の出版社、大日本雄弁会（講談社の前身）は、わずか3週間後の2月10日、彼の評伝を発行した。それが本書、『快傑レーニン』である。『快傑レーニン』——昭和の子供向け特撮ドラマのようなタイトルに、つつい吹き出してしまいそうになるが、実は知る人ぞ知る奇書である。著者は白雲楼学人。本書の他に著作は知られていない謎の著者。かくしてその正体は——当時、外務省情報部第二課長の任にあった芦田均あしだひとしのちの第四七代内閣総理大臣（在任1948年3月・10月）、芦田均その人なのである。



出版前に行われた内務省の検閲により第三インターナショナルに関する説明が大幅に削除され、「・・・」と伏字になっている。  
(<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1877444/86>)

芦田均は第二次世界大戦後、冷戦下におけるソ連の脅威に警鐘を鳴らし、熱烈な再軍備論者となったことで知られる。そんな彼がなぜレーニンの評伝を執筆したのだろうか。

芦田は現在の京都府福知山市に生まれ、東京帝国大学を卒業後25歳で外務省に入省。その2年後の1914年から最初の在外勤務を在ロシア日本大使館で送った。ロシア革命が起こったのはまさに芦田のペトログラード駐在中であった。

革命は、1917年3月8日の反乱に始まる帝政の倒壊、11月のレーニン率いるボリシェビキ（ソビエト共産党の前身）の政権奪取の二段階で進行した。当時のロシアでは現行の西暦より暦日が13日遅れたユリウス暦を使用していたので、最初の革命を「二月革命」「二番目の革命」を「十月革命」という。

十月革命が起こった日の夜、芦田はネヴァ川の河畔に近い自宅で、反乱に加担した巡洋艦アヴローラの砲声を耳にした。自宅を飛び出した彼は、銃を肩にした兵士や労働者たちが冬宮へと足早に向かい、夜中には冬宮を守っていた政府側部隊が撤退していくのを目撃している（『革命前夜のロシア』）。

こうして歴史の激動に立ち会った芦田は、公務では革命前後のロシアの経済社会情勢に関する調査に従事していた。『快傑レーニン』はこの経験に基づいて書かれたのである。

1924年の日記によると、レーニン死去の報を1月23日に知った芦田は、その日の晩に執筆に取りかかり、1月31日には最終作業を行っている。校正刷が出来上がったのは2月3日。多くは過去の原稿を再編集したのであるが、それにしても驚くべき速さである（『芦田均日記 1905・1945』）。

『快傑レーニン』において、芦田はレーニンとロシア革命について決めつけをせず、客観的に功罪を評価しようという態度を貫いている。

彼はレーニンのソビエト政権を、暴力を方便とし、目的のために手段を選ばない精神を持っている点ではファシズムと変わりがないと断じ



芦田均 (1887-1959)

『近代日本人の肖像』より  
<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/352.html>



進藤栄一, 下河辺元春 編『芦田均日記』岩波書店, 1986.

芦田は1905年、第一高等学校（現在の東京大学教養学部）在学中の18歳から日記をつけ始め、1959年に亡くなるまで50年以上続けた。日記は翻刻が出版されており、自筆原本のうちおおむね戦後分に当たる一部は遺族から寄託を受けて国立国会図書館憲政資料室が保管している。



『快傑レーニン』奥付

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1877444/124>

『快傑レーニン』の売れ行きは好調で、発行後一か月で15刷を数えている。日記によれば芦田は「白雲楼」の印が押された印紙を2月だけで6,000枚出版社に渡しており、印税として定価の1割に当たる合計900円を受け取ったという。

る。しかし、レーニンが「無産者の名に於て有産者を迫害し、解放の名に依つて極端に個性を束縛」するのと同時に「三百年の間培れた鋼の如き因襲を粉微塵に」打ち破り、「固陋腐敗の専制政治よりロシアの蒼生を救つて之に人間としての生活経験を与えた」とも評するのである。このような柔軟で多面的な視点は学者肌の外交官・政治家であった芦田の面目躍如というべきであろう。彼のレーニン評は、社会主義の波及が恐れられていた当時の現職官僚としては異色である。本書が匿名で出版された理由がうなずける。

1932年に衆議院議員に当選した芦田は軍部の独走を批判、リベラリスト（自由主義者）として知られるようになる。『快傑レーニン』からも、何よりも自由と民主主義を重んじた彼の政治思想を読み取ることができる。

芦田はその信条に基づいて、1924年時点のソ連を理解していた。レーニンは晩年、「新経済政策」として資本主義を部分的に復活させた。だが、芦田はこれを行き過ぎた社会主義革命の終結とみなしていたのである。「自然の大法則」によってロシアは修正資本主義を選択し、いずれ自由主義国家へと回帰していく——これが芦田の見通しだった。

その後の歴史は彼の予想を裏切った。レーニンの後継者たちは国民に社会主義を強引に押し付けて自由を抑圧するのみならず、かつての帝国主義のように力づくに勢力圏を拡大している——冷戦体制をこのように読み取った芦田は、ソ連を強く批判するようになったのである。

【参考文献】

芦田均『革命前夜のロシア』文芸春秋新社, 1950.  
進藤栄一, 下河辺元春 編『芦田均日記』岩波書店, 1986.  
福永文夫, 下河辺元春 編『芦田均日記 1905-1945』柏書房, 2012.  
上田美和『自由主義は戦争を止められるのか』吉川弘文館, 2016.  
上田美和「リベラリストの悔恨と冷戦認識」(伊藤信哉, 萩原稔 編著『近代日本の対外認識 1』彩流社, 2015)  
宮野澄『最後のリベラリスト・芦田均』文芸春秋, 1987.

# 憲政資料室の新規公開資料から

国立国会図書館は、幕末・維新时期から現代に及ぶ時期の政治家、官僚、軍人らの所有していた個人文書（憲政資料約三九万点）を所蔵しています。このたび東京本館憲政資料室で新規に公開した資料をご紹介します。

憲政資料は主にご子孫などからの寄贈によって収集した資料から構成されており、整理や目録作成を経て一般に公開されています。この記事により、政治史をはじめ様々な分野の調査・研究を支える貴重なコレクションの魅力の一端を味わっていただければ幸いです。

## 憲政資料室のご案内（東京本館 本館4階）

幕末・維新时期から現代にいたる政治家・官僚・軍人などが所蔵していた文書類を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、主に北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を扱っています。

憲政資料室の利用方法、今回紹介する資料を含む所蔵資料の概要については、リサーチ・ナビ「憲政資料室の所蔵資料」(<https://navi.ndl.go.jp/kensei/>)をご覧ください。



憲政資料室

## 太田耐造関係文書

（二〇四号 平成二十九年二月公開）

太田耐造は思想取締等を担う司法省刑事局第六課長等、司法行政に係る要職を歴任した人物であり、同文書は業務上取得した内部文書や訊問調書等を含みます。

太田が刑事局第六課長であった期間には「ゾルゲ事件」の取調べが行われていました。これは、第二次世界大戦中にリヒャルト・ゾルゲを中心とする諜報機関が日本の機密情報をソ連に通報していたとして機関員が逮捕、処罰された事件です。昭和一六（一九四二）年一〇月にゾルゲらが検挙された当初、事件は公表されず、翌昭和一七年五月に司法省から「国際諜報団事件」として発表されました。司法省内ではその間、発表の在り方をめぐって検討がなされていた

ようで、修正が書き込まれた発表草案が残っています<sup>〔写真1〕</sup>。それに対する「外務省非公式意見」<sup>〔写真2〕</sup>と突き合わせると、どこに外務省の意見が反映されたか一目瞭然です。また、発表に合わせ作成したとみられる「新聞記事掲載要領」（資料番号213）では、新聞への写真掲載を禁止するほか、トップ扱い等をしないよう命じており、政府がこの事件の国民への影響を統制しようとしていた様子が看取されます。

このゾルゲ事件に係る資料のほか、無産運動取締りの過程での押取物など、当時の生々しい資料も残っており、昭和戦前期の司法省を知る恰好の資料群です。

1 別の草案として資料番号 211-4

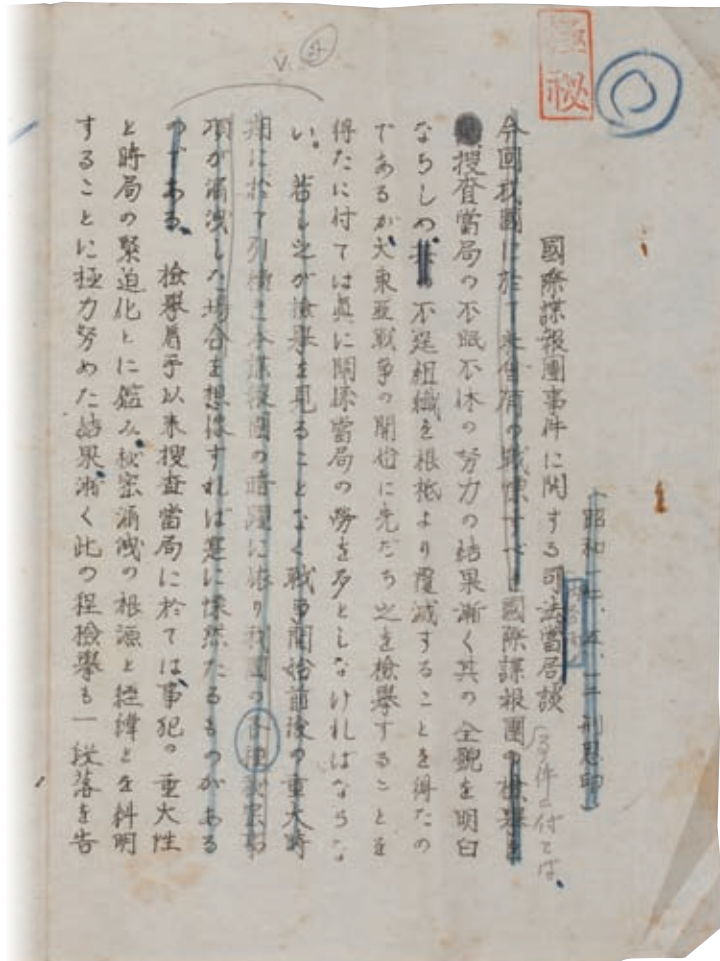


写真1  
 国際諜報団事件に関する司法当局談  
 <太田耐造関係文書 209-4>  
 随所に手書きの修正の跡が残る。

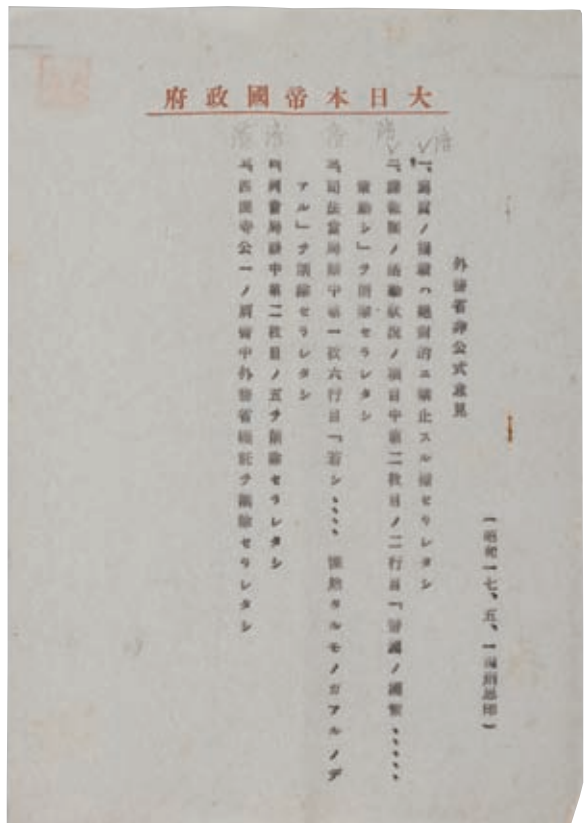


写真2  
 外務省非公式意見  
 <太田耐造関係文書 212-1>  
 太田耐造関係文書209-4(写真1)  
 に対応する修正意見。上の写真  
 では「三」の箇所が削除されて  
 いる。

太田耐造 (1903-1956)  
 明治36(1903)年東京生まれ。昭  
 和14(1939)年に刑事局第6課長、  
 昭和17年に満洲国司法部刑事司  
 長などを歴任する。敗戦直後は大  
 審院判事、弁護士となるも、公職  
 追放となった。昭和31年死去。

はまぐちおさち  
浜口雄幸関係文書（第2次受入分）

（七点 平成二十九年六月公開）

昭和期に首相を務めた浜口雄幸の関係資料としては、平成四年に日記等の寄贈を受けて収蔵していますが、このたび新たに帝大時代のノート等の資料の寄贈を受けました。

**写真3**は浜口雄幸が末岡精一（二八五〜一八九四）の講義を受講した際の講義筆記です。

「わが国における最初の憲法学者」とも称される末岡は、在学中から秀才の誉れ高く、明治一四（二八二）年東京大学文学部卒業と同時に文学部兼法学部准講師を命ぜられます<sup>(2)</sup>。翌明治一五年三月からの伊藤博文の憲法調査に同行してドイツ・オーストリアの大学で学び、シュタイン (Lorenz von Stein, 1815〜1890、高名なドイツの法学者) にも面会、帰国後憲法・国法学を講じますが、明治二七（一八九四）年、三九歳にして病氣により早逝します。

それだけに浜口のノートは、わが国の憲法学の黎明期を照らす貴重な記録です。

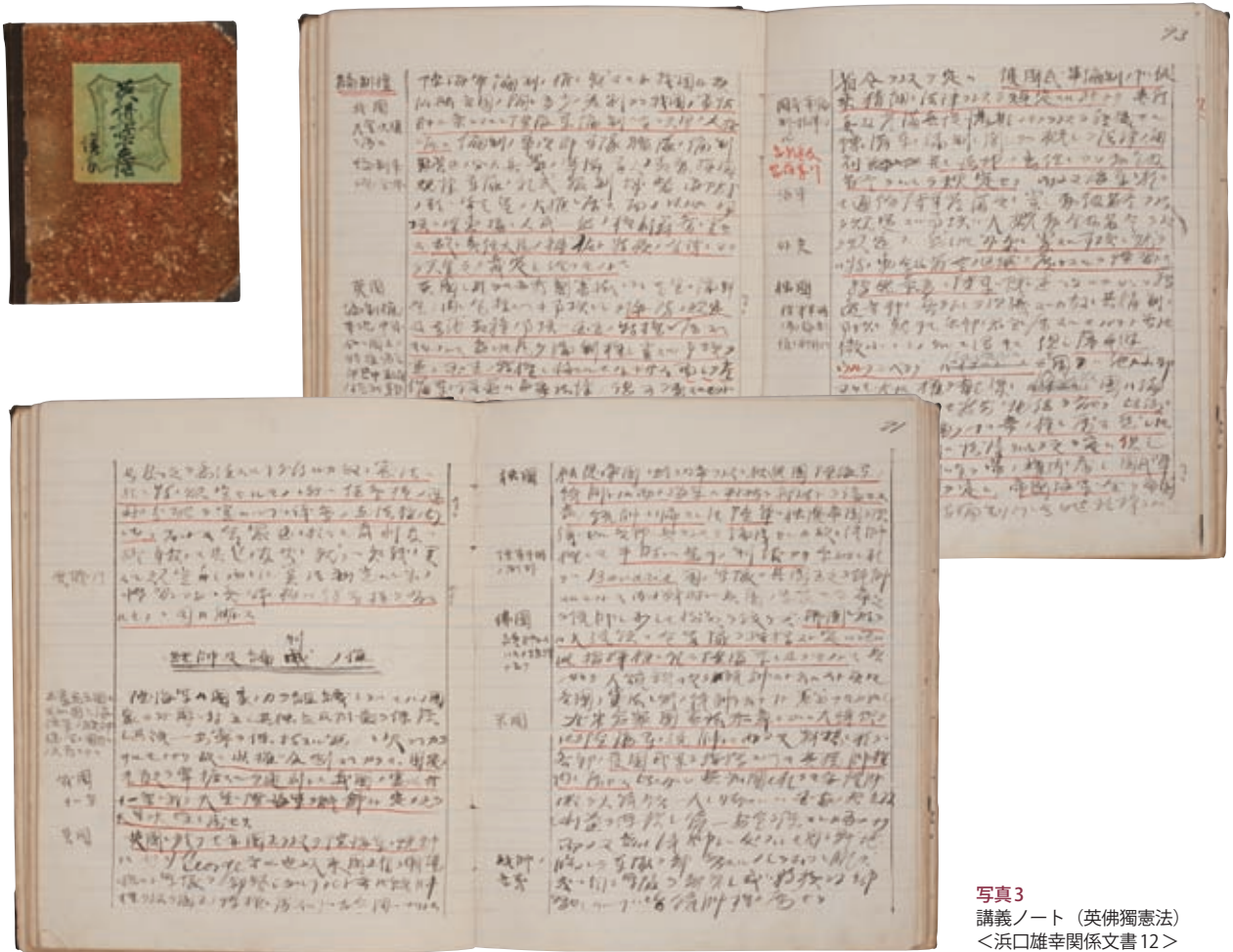
今回寄贈された資料には、末岡

の講義を筆記したノートだけでなく、穂積陳重（法理学）や土方寧（民法・人権法）の講義のノートも含まれています（**写真4**）。

浜口の筆記は端正だったため、同級生の間でも浜口のノートの評価は高かったようです。

明治二八（一八九五年七月）の帝國大学法科大学政治学科の卒業時の成績は、首席が小野塚喜平次、次点が中島滋太郎、三位が浜口雄幸でした。次点の中島は、のちに学生時代の浜口について「学生時代の濱口は黙々として、インキ壺を提げて赤門をくぐり、黙々として教場に入り黙々として筆記し、また、黙々として帰って行くといふ風で、図書館にも、あまり顔を出す方ではなかった」「君の大学時代の筆記は奇麗なもので誰が見てもよく分つた」と述べています<sup>(3)</sup>。復習のためか書込みやクエスチョンマークに溢れたノートを見ていると、このような回想にも得心がいくところですよ。

今回ご寄贈を受けた資料の中には、憲法学者佐々木惣一の論文「兵



**写真3**  
講義ノート（英佛獨憲法）  
＜浜口雄幸関係文書12＞



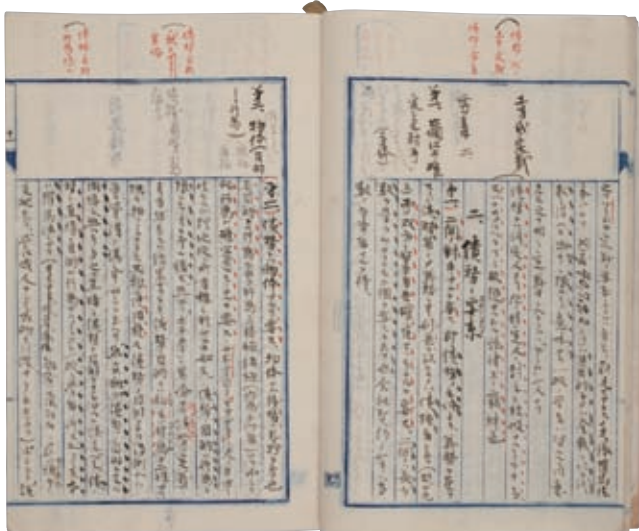


写真4  
講義ノート（民法人権法）  
＜浜口雄幸関係文書14＞

力量決定に於ける政府及び軍部の関係」が掲載された『改造』一二卷七号（一九三〇年七月号）やそれに挟まれたペン書きのメモも含まれます。当時、ロンドン海軍軍縮条約の調印をめぐる統帥権干犯問題が政局を騒がせましたが、このメモは、干犯問題にも関係する海軍軍令部条例第三条に関する論点を、浜口自ら記したものと推定されます（写真5）。

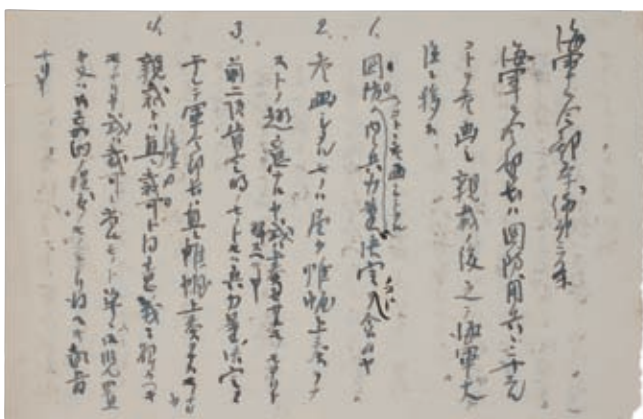
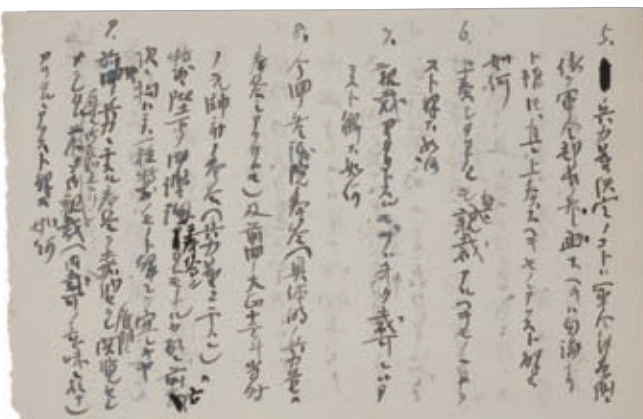


写真5  
海軍軍令部条例第三条に關係するメモ  
＜浜口雄幸関係文書17＞



浜口雄幸（1870-1931）

明治3（1870）年高知生まれ。明治28年帝国大学法科大学卒、同年大蔵省入省。通信次官、大蔵次官を経て、立憲同志会に参加し、大正4（1915）年衆議院議員に初当選し、以後6回当選した。憲政会総務の後、加藤高明内閣で大蔵大臣、第1次若槻礼次郎内閣で内務大臣・大蔵大臣を歴任。昭和2（1927）年立憲民政党初代総裁。昭和4年首相となり、金解禁を断行。昭和5年ロンドン海軍軍縮条約調印に踏み切る。同年11月東京駅で狙撃され重傷、昭和6年8月26日死去。



肖像写真の出典：  
『近代日本人の肖像』（<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/168.html>）

- 2 末岡精一の業績については、高見勝利「講座担任者から見た憲法学説の諸相 日本憲法学史序説」『北大法学論集』52（3）、2001、pp. 803 - 840.
- 3 末岡の講義録としては、一木喜徳郎が筆記したものが東京大学法学部に現存。
- 4 没後に編まれた主著として末岡精一『比較国法学』博文館、1899.
- 5 『浜口雄幸伝』浜口雄幸伝刊行会編・刊、1931、pp. 64 - 65.

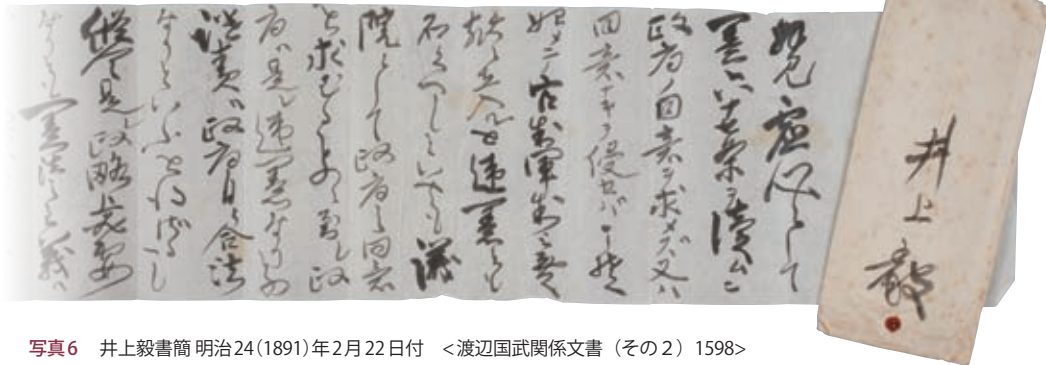
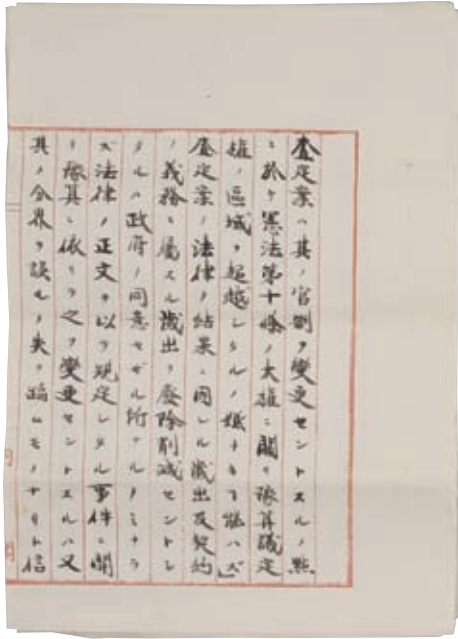


写真6 井上毅書簡 明治24(1891)年2月22日付 <渡辺国武関係文書(その2) 1598>

わたなべくにたけ  
渡辺国武関係文書(その2)

(八七〇点 平成二九年三月公開)

明治時代の大蔵官僚、政治家である渡辺国武の旧蔵資料です。来簡が多ク五〇〇点以上にのぼります。

第一回帝国議会(一八九〇―一八九一)の衆議院では反政府野党である民党が過半数を超え、山県有朋内閣の予算案に対して審議が重ねられました。大日本帝国憲法第六七条(天皇大権に基づいて既に実施されている予算については、議会は政府の同意なくして削減できない)について、その範囲や政府に同意を求める時期をめぐり論戦が行われました。この条文をどう運用すべきかは政府にも議会にも大きな課題で、渡辺国武は大蔵次官として説明の任に当たっています。明治二四(一八九二)年二月二〇日に衆議院で政府側の意に沿う動議を与党が提出し、民党の一部の賛成を得て、予算成立の道筋が見えてきました。それを受けて二日後に法制局長官で憲法起草にも活躍した井上毅が渡辺国武に、「拝見 虚心ニして憲〔法〕六十七条ヲ讀ムニ……」から始まる書簡を送り、議会が予算削減について政府の同意を求めずに又は同意がなを行えば、それは違憲

と言えるが、削減の同意を求めること自体は違憲とは言い得ないと政府の対応について意見を述べ、参考となる説明資料と井上毅が自身の意見をまとめた小冊子「憲法第六十七條ニ関スル意見」(写真6)も添えています。これを見ると政府と議会の関係の調和を試みていたことをうかがわせます。

渡辺国武 (1846-1919)

弘化3(1846)年長野生まれ。維新时期に大久保利通に引き立てられ、明治4(1871)年に民部省、大蔵省に勤め、その後、大蔵官僚の道を歩む。大蔵次官、第2次伊藤博文内閣の大蔵大臣、逓信大臣、第4次伊藤内閣の大蔵大臣を歴任。大正8(1919)年死去。兄の渡辺千秋は宮内官僚で、その息子千冬を養嗣子とした。

肖像写真の出典：  
『画譜 憲政五十年史』



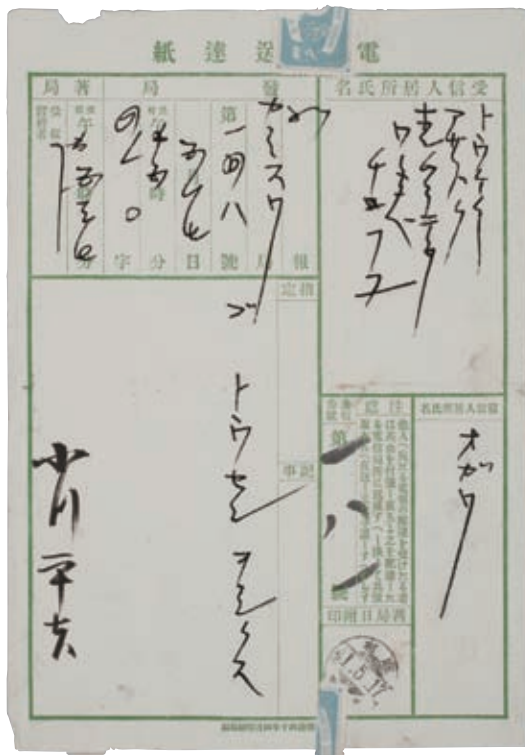


写真8 電報 <渡辺千冬関係文書717>

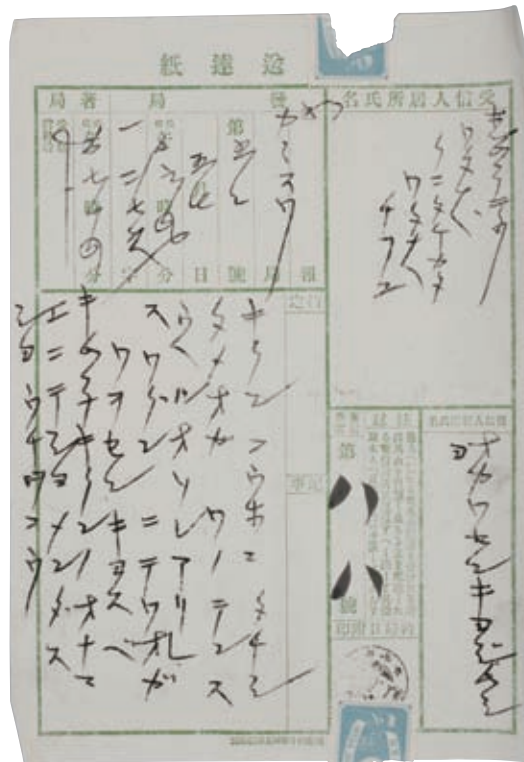


写真7 電報 <渡辺千冬関係文書687>

わたなべ ちふゆ  
渡辺千冬関係文書

(三三三三三) 平成二十九年三月公開

大正、昭和前期の政治家である渡辺千冬の旧蔵資料です。来簡、手帳・日記(二八八九〜一九四〇年、断続的に残存)、明治四一(一九〇八年の第一〇回衆議院総選挙、日仏銀行関係の書類が含まれています。なかでも渡辺千冬が政界に初めて打って出た第一〇回衆議院総選挙(投票日は五月一日)に関して、当時の電報の束がまとまって残されています。千冬は出身地である長野県にて無所属で立候補しました。この時、養父である国武と親交のあった小川平吉も立候補しており、両候補の間には、地盤割りの協定があったようです。しかし、選挙戦も終盤になると票の奪い合いが激しくなつたようで、小川の事務所から来た電報(五月七日着局日付印)(写真7)には「貴君候補に立ちしたため小川の点数減る恐れあり 諏訪郡にてわ小川を選挙すべき旨 貴君のお名前にて書面出す 承知を請う」と記されています。選挙結果をみると、長野県で一二名の立候補者中、渡辺千冬は第三位の得票当選(定員九

名)で、当時、衆議院では最年少の議員となりました。同時に当選した小川(第四位)からも祝電(写真8)が送られています。当時の選挙のあり方がうかがえる資料です。



渡辺千冬 (1876-1940)

明治9(1876)年長野生まれ。渡辺千秋の三男。明治28年に叔父にあたる渡辺国武の養嗣子となる。日本製鋼所、日仏銀行取締役役に就任、明治41年に衆議院議員に当選。大正9(1920)年には貴族院の子爵議員となり、浜口内閣、第2次若槻内閣で司法大臣を務め、昭和14(1939)年に枢密顧問官、翌年死去。

肖像写真の出典：  
<渡辺千冬関係文書727>



写真9 日記 <渡辺武関係文書542、同547> 上が昭和16年、下が昭和20年。

## わたなべたけし 渡辺武関係文書

(二〇点 平成二九年三月公開)

昭和期に大蔵官僚として活躍した渡辺武の旧蔵資料です。日記・手帳（一九二一〜一九九七年の間、断続的に残存）が大部分を占めています。

歴史上で大きな出来事があった日、昭和一六（一九四一）年一月二日、昭和二〇年八月一日のページを参照してみました（写真9）。前者では、米英との開戦を新橋駅での号外で知り、職場は「敵産管理等の応急措置に付早速協議」を開始します。後者では、「正午次官室にて陛下ノ御放送ヲ謹聴 涙滂沱タリ」と、前日には「明日聖上詔書御放送ニ決ス」と知りながらも、感極まつた様子がうかがえます。両者を並べてみると、紙質の劣化が一目瞭然で、それぞれの時期の経済状況がうかがえます。

### 渡辺武（1906-2010）

明治39（1906）年東京生まれ。渡辺千冬の長男。昭和5（1930）年に大蔵省入省、主計局第三課長、総務局企画課長、大臣官房企画課長を務め、戦後は、大蔵省終戦連絡部次長、同部長、大臣官房長を歴任、1950年代には在米特命全権公使、後に国際復興開発銀行理事、アジア開発銀行総裁を歴任、平成22年死去。

横山助成は東京府等の知事のほか、警視總監、大政翼賛会事務総長を歴任した人物です。同文書には戦歴にゆかりのある人物からの書簡が遺されています。

朝鮮総督であった阿部信行（一八七五～一九五三）からは太平洋戦争末期の昭和二〇（一九四五）年五月一日付の書簡が送られています（写真10）。この時期は、攻勢に転じた米軍等が前年の一〇月にフィリピンに進軍したことを機に、本土防衛の観点から朝鮮半島南部及び済州島の重要性が高まり、朝鮮では沿岸部における築城や兵力の増強等が進められていました<sup>6</sup>。現地から出されたこの書簡にも「戦場化の準備に奔走」「自給自戦態勢二大童」という言葉が見られます。

また、朝鮮総督府政務総監であった遠藤柳作は戦後の談話のなかで、戦時中の米の供出に関して、内地人（日本人）が自らの「聖戦」のために負担するのは仕方ないが、自らのための戦争だと思っていない朝鮮人に内地人と同等の負担を強いるのは酷だと主張して、

負担を当然視する東京の中央政府と激論したと述懐していることが知られています<sup>7</sup>。

この阿部の書簡でも、既に敗戦を見越している朝鮮民族から戦争協力を得るにはむしろ「多少の善政らしき満足」を与える必要があるのにも拘らず、「米も出せ」「人も出せ」と命ずる一方では得心させられず苦心していることを吐露しつつ、内地からはそうした実情が分からないとして朝鮮と内地の間の齟齬について述べており、同時代の朝鮮総督による現状認識を示す言葉として興味深いものです。

横山助成 (1884-1963)

明治17(1884)年秋田生まれ。大正11(1922)年に内務省衛生局長となり、その後、岡山県知事、石川県知事、東京府知事等を歴任。そのほか、警視總監、大政翼賛会事務総長にも任じた。昭和38(1963)年死去。

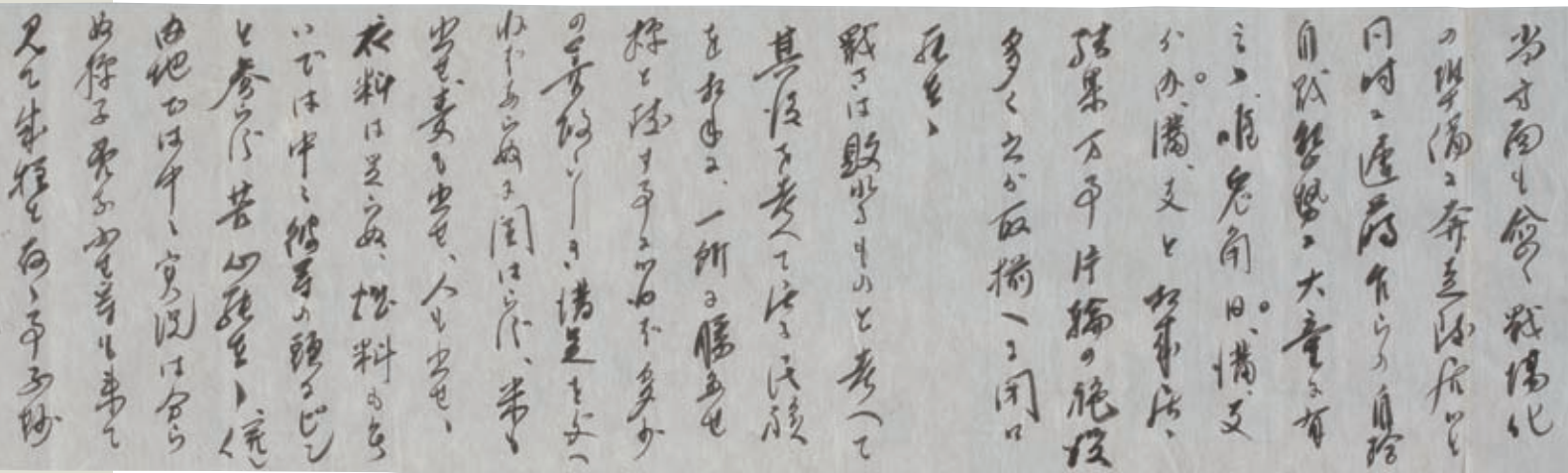


写真10 阿部信行書簡 横山助成宛 昭和20(1945)年5月15日付<横山助成関係文書1>

6 宮田節子[編]『朝鮮軍概要史』『十五年戦争極秘資料集 第15集』不二出版,1989

7 遠藤柳作・山名酒喜男・梶村秀樹「阿部総督時代の概観—遠藤柳作政務総監に聞く(1959.9.16)」『東洋文化研究』(通号2),2000

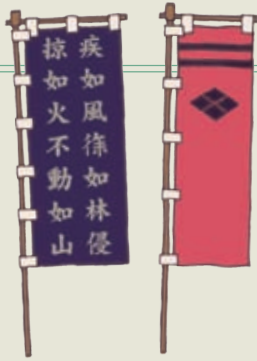


武田信玄朱印状 正月二十二日  
(国立国会図書館所蔵「在印古文書」)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1286877>

# 「目の調子が悪くて……」 ハンコ文化の誕生？

きのした りょうま  
木下 竜馬





でも…  
手が痛くて…  
目の調子が悪くて…

ハンコを使わせてもらいます

いつもの書状には  
花押を書くぞ



(「竜の朱印」イメージ図)



武田氏の「竜の朱印」  
(トレース)



武田信玄花押  
(トレース)

今回取り上げる文書は、甲斐（現在の山梨県）の戦国大名・武田信玄の書状です。本文書は、上野国（現在の群馬県）での作戦について、現地の武士に指示するものであり、永禄七年（一五六四）の文書と推定されています。月日の下に「信玄」と署名があり、その下に押された堂々とした朱印が印象的です。

ところが実はこの文書、奇妙な点があるのです。月日の右に少し小さな字で書かれているのは、追伸です（白樺部分）。読んでみましょう。「追伸。眼の調子が悪いので、ハンコを使わせてもらいました。（追々眼病気故、用「印判」候）。なんと、ハンコを使った言い訳なのです。なぜ信玄はこんな言い訳をしたのでしょうか。そこにはハンコをめぐる大きな社会の変化がありました。

現代の日本において、印章、つまりハンコは、個人の認証や意思確認の方法として一般的に用いられています。江戸時代にはすでに、庶民から役所までハンコは広く使われていました。ところが中世日本で一般的だったのは、ハンコではなく、筆で書く花押でした。

戦国時代は、花押の時代からハンコの

時代へちやうど移り変わる時期にあたります。特にハンコを盛んに使ったのが東国の戦国大名たちであり、ハンコを押した文書（印判状）を広く用いました。小田原を拠点とした北条氏の「虎の朱印」が代表的です（次ページ参考図参照。本文書に押されているハンコは竜をかたどっており、武田氏の「竜の朱印」としてこれもたいへん有名でした。

ハンコは花押にくらべて手軽です。文書を大量に出すことに向いています。前の時代にくらべ細かな民政を行った戦国大名は文書を出す量が増えたので、ハンコの導入はそれに適していたのでしょう。また、ハンコの特徴として、引き継ぎができる点があります。花押はオリジナルの模様を自筆で書くのが原則なので、別人に引き継がれることはありません。一方、北条氏の「虎の朱印」は代々の当主に用いられ、家の印となっていました。信玄の「竜の朱印」も、信玄の跡を継いだ武田勝頼に引き継がれます。ハンコの導入は、ある種の行政の合理化につながる側面がありました。

しかし、この手軽で引き継げるという点ゆえに、ハンコは花押よりも格下とさ



れました。花押が書かれた文書のほうが、より丁寧だったのです。

村や家臣に対して出される上位下達の書類系の文書には、ハンコを押しても文句はいわれません。しかし、対等な相手と交わすタテマエである書状には、きちんと花押を書くべきと認識されていたようです。信玄も書状には、原則的に花押を用いました。信玄の花押は凝った形で、線を重ねたり塗りつぶしたりと、それなりに手間がかかったようです（前頁図参照）。ふつう、武家の文書は署名まですべて書記が書くので、花押の代わりにハンコを押すと、信玄の自筆の部分がゼロになってしまいます。プリントだけの年賀状がどこか味気ないのと一緒で、書状には合理化がそぐわないところがあります。そこで本文書のように、書状にハンコを使うときはひとこと言い訳するマナーができたのです。

にした翌日に花押を書いた書状を出したりすることもあるので、これらの言い訳が本当なのかはわかりません。極端なケースですが、信玄没後、その死を隠すために、右のような言い訳を添えて信玄のハンコを押した書状も現存しています。ひよつとしたら本文書も、信玄は内容をちよつと確認するだけで、文章から捺印まで家臣がやっていた可能性もあります。それでもわざわざ具体的な言い訳を書かなければいけなかった点に、ハンコ文化ができたばかりの時代の特徴があるように思われます。



以上、五回にわたって中世古文書の「よみかた」をご紹介してきました。文字列だけでなく、文書様式、花押や差出宛名の位置、使っている紙など、さまざまな約束事を読み解くことで、古文書からはたくさん情報が得られます。中世の古文書の世界の奥深さを少しでも体験していただけたのであれば幸いです。

## 資料の世界の歩き方

「資料の世界の歩き方」は、国立国会図書館が所蔵する資料のうち、少し難しそうな資料を取り上げ、その「よみかた」に触れる連載です。「中世の古文書を読んでみよう」のシリーズは今月でいったんおしまい。来年1月から新しいテーマで再開します。おたのしみに！



参考図 北条氏の「虎の朱印」  
四角形の上に寝そべる虎が描かれています。  
北条氏朱印状 七月二十三日  
(国立国会図書館所蔵「在印古文書」)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1286878>

また別の資料の世界で  
お会いしましょう！

(絵・正保  
しょうほ  
さつぎ  
五月)





## 日本の絵本の歩み

## 絵巻から現代の絵本まで



『あめのひのおるすばん』より いわさきちひろ  
1968 ちひろ美術館所蔵  
絵本『あめのひのおるすばん』【Y17-8334】は国際子ども図書館所蔵

国際子ども図書館では、11月1日から11月30日まで、ちひろ美術館（いわさきちひろ記念事業団）と共催で、企画展「日本の絵本の歩み―絵巻から現代の絵本まで」を開催します。ここでは、この展示会の概要と構成を、主な出展資料と共に紹介します。

日本には、魅力あふれる絵本の歴史があります。本展示会では、それぞれの時代の絵本の形態、印刷技術や表現方法の変化などを確かめながら、一千年以上にも及ぶ日本の絵本の歩みをたどります。古典籍資料なども取り入れ、絵巻からデジタル画像に至る多種多様な形態や豊かな色彩をあますことなくご覧いただけます。また、ちひろ美術館所蔵の絵本の原画も高精細な複製画（ピエゾグラフ）により展示します。

本展では、時代を追って、4部構成でご紹介します。

11月1日水～11月30日木

入場無料

ILCL 国際子ども図書館 レンガ棟3階 本のミュージアム

9:30～17:00

※月曜日、11月3日（金）、15日（水）、23日（木）は休館  
※会期中で展示替えを行います。  
前期：11月1日（水）～14日（火）  
後期：11月16日（木）～30日（木）

<ギャラリートーク>  
11月4日（土）、12日（日）、18日（土）、19日（日）、  
25日（土）、26日（日）  
展示会担当者が展示の見どころをお話しします。  
※いずれも14:00から30分程度。申込不要。  
展示会場のレンガ棟3階 本のミュージアムに直接お集まりください。

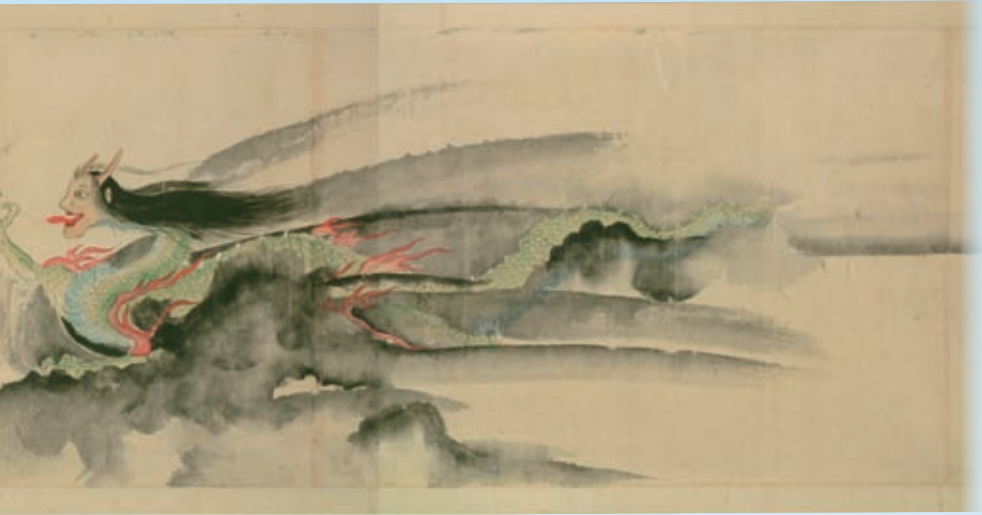


Facebook ページ「国際子ども図書館の展示（国立国会図書館）」で、国際子ども図書館の展示会情報等を発信しています。

<https://www.facebook.com/ILCLexhibition>


# 第1部


# 絵本の源流



① 国宝 絵巻『絵因果経』（原本は東京藝術大学蔵。日本美術学院複製） ちひろ美術館蔵

【】内は国立国会図書館請求記号  
 所蔵館について注記がないものは国際子ども図書館蔵  
 以下のアイコンがついた資料は原資料デジタル化済みです。

 国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>) を通じ、インターネットからご覧いただけます。

 国際子ども図書館、東京本館、関西館内の端末でご覧いただけます。

日本における絵本の源流は、絵巻に見出すことができます。巻物を広げるにつれて絵と文が展開していく絵巻は、絵入りの本の起点として位置付けることができます。

奈良時代に作られた『絵因果経』は日本最古の絵巻とされ、巻物の下半分には経文が書かれ、上半分には経文に対応する絵が描かれています。仏教を紹介するために用いられていたものと考えられています。

### 資料①

平安時代になると、「竹取物語」や「源氏物語絵巻」のように物語を題材としたものへと変わっていきました。絵巻は天皇家や貴族などが製作、鑑賞するような高価なもので、時代が下るにつれて広がりを見せて鎌倉時代に最も多く作られたものの、大名や豪商などが製作、鑑賞するにとどまりました。

↓資料②③



# 第2部

# 絵本の歴史



⑥『小袖曾我』【WA32-18】東京本館所蔵 \*前期のみ

横長の形態をした奈良絵本『小袖曾我』です。曾我兄弟が父の仇討ちを前に曾我の里にいる母を訪れます。画像は、兄弟と母の別れの場面です。初期の奈良絵本には、裏表のページ数枚にわたって絵が続くなどの絵巻の名残りがありますが、この資料のように綴じを意識した配置になっているなど、巻物から冊子体への変化がはっきりと分かります。



室町時代後期から江戸時代へと移り変わる頃、巻物から冊子体への形態の変化、手書きから印刷への変化が見られます。

室町時代後期から江戸時代前期まで製作されていた絵入りの彩色写本を「奈良絵本」と総称しています。奈良絵本も絵巻も、絵も字も手書きによるものでした。↓資料⑤⑥

一方、御伽草子、仮名草子などの版本の挿絵に、丹（鉛丹）、緑（岩緑青）、黄など、色だけ筆彩色を施したのもありました。これを「丹緑本」と言います。時期や題材などは奈良絵本と重なる部分が多く見られます。↓資料⑦

「草双紙」は、江戸時代中期に誕生してから明治20年前後まで、昔話を中心に出版されました。表紙の色や製本の変遷によって「赤本」「黒本・青本」「黄表紙」「合巻」と名称が変わっていききました。本文には色はついていません。木版印刷で量産ができ安価だったため、一般庶民でも購入でき、子どもたちも楽しめるようになりました。↓資料⑧



⑤ 絵巻『付喪神記』【本別7-562】東京本館所蔵 \*後期のみ  
100年を越えるような長い年月を経て古くなった物には、神や精霊（靈魂）などが宿るとされており、それらは付喪神（九十九神）と言われています。上記の『付喪神記』の画像は、古い道具が捨てられたことを恨み妖怪になった場面です。



⑨ 『Momotaro』【C-26a】 \*前期のみ



⑧ 『ふんぶく茶釜』【寄別5-3-2-12】東京本館所蔵 \*前期のみ



⑦ 『義経記』三【WA7-266】東京本館所蔵 \*前期のみ



明治時代中期からは、和紙に多色木版で絵を刷り、絹織物の縮緬のようなしわ加工を施し、欧文活版で文字を印刷した和装綴じの絵入り本「ちりめん本」も出版されます。昔話をはじめとする日本文化に関する書物を、当時宣教師などとして来日した外国人が執筆・翻訳してました。絵は日本画の絵師が手がけています。英語のほかにも、フランス語・ドイツ語・オランダ語・スペイン語などがあり、日本に居住する外国人の読み物、外国語の習得を目指す日本人の教科書、輸出品以外に、外国人向けのお土産としても人気だったようです。↓資料⑨

1 「奈良絵本」と称されるようになったのは明治時代になってからのことです。名前の由来は明らかになっていませんが、奈良時代や奈良地方との直接の関連性はないと言われています。  
『魅力の奈良絵本・絵巻』石川透編 三弥井書店 2006年【UM24-H11】

## 第3部

# 明治から戦前期までの 絵本と絵雑誌



11 『ナカニシヤ日本一の画噺』 「イッスンボウシ」  
【特64-813】 東京本館所蔵  
巖谷小波 著 杉浦非水 等 画  
中西屋 1911



10 『絵入智慧の環』  
【特38-640】 関西館所蔵  
古川正雄 1872

明治時代から戦前期までは、単行

の「絵本」と「絵雑誌」という、二つの大きな流れを追いながらご紹介します。

明治時代初期、近代に入った日本において、文字と絵が配された絵本の要素を持つ本が刊行されました。そして明治時代後半になると、西洋の新しい印刷技術が導入され、多色刷りが飛躍的に普及しました。また、西洋から近代的な児童観がもたらされたこともあり、国内でも学齢未満の子どもたちに対する幼児教育制度が整備され始めます。日清・日露戦争による好景気も背景となり、子どものため、という位置付けの絵本・絵雑誌が登場します。

その後、昭和13（1938）年に国家総動員法が可決、同年「児童読物改善ニ関スル指示要項」が通達され、戦局により出版物に物理的・内容的に統制が加えられたことも、この時代における着目すべき出来事でした。

## 絵本

明治3（1870）年に出版された『絵入智慧の環』は、近代日本の絵本の起点と言われています。初編は文字と絵を組み合わせて身近な物や言葉などを子ども向けに示している、今日の知識絵本にもつながる本です。↓資料10

明治時代末期には、「画帖」や「絵ばなし」が出版され始めます。「絵本」という呼称が一般的になるのは大正時代終わり頃から昭和時代初期にかけてで、明治・大正時代には「画帖」または「絵ばなし」という呼び名が一般的でした。明治44（1911）年から大正時代初期にかけて刊行された「日本一ノ画噺」シリーズ（全35冊）は、巖谷小波の文に著名な画家3人が交互に絵を描いた優れたデザインの小型本で、日本の近代絵本史に残る傑作と言われています。この頃から、絵と文が互いに補い合い、調和して一つの世界を作り上げるという点で、今日にも通じる現代的な「絵本」の傾向が現れてきます。↓資料11



14 『コドモノトモ』【Z32-B158】  
3巻1号 東京社



13 『子供之友』【Z32-B156】  
1巻6号 婦人之友社



12 『幼年畫報』【Z32-B291】  
3巻14号 博文館



大日本雄弁会講談社が昭和11(1936)年に創刊した、「講談社の絵本」というシリーズがあります。1冊につき1テーマの単行形式の定期刊行本です。昭和17(1942)年に終刊となった後は「コドモエバナシ」と改題し、昭和19(1944)年まで続きました。読むだけでなく見ることにも重点を置いた豪華な絵本を目指し、当時一流の日本画家や洋画家を起用していました。ページの隅々まで彩色された印刷は見応えがあり、絵本を広く一般に浸透させるのに重要な役割を果たしました。時局の変化に伴い、愛国精神を反映したもののや戦争に関する美談なども含みつつも、昔話、漫画集、物語絵本、科学絵本など、幅広い内容子どもたちに提供しました。

も」とされています<sup>3)</sup>。西洋の物語を紹介し、挿絵にも西洋の影響が顕著にみられます。

大正期には、鈴木三重吉主宰の『赤い鳥』に代表されるような、子どもの無垢な心を大切にする「童心主義」に基づいた児童文芸雑誌が誕生しました。想定読者層を少年のみから少女へも広げ、さらに低年齢層へと多様化していきました。その流れの中で、幼年向けに絵を中心とした絵雑誌が次々と刊行されるようになりました。『幼年畫報』(明治39年創刊)、『子供之友』(大正3年創刊)、『コドモノトモ』(大正11年創刊)もこの時期に登場した雑誌です。↓資料121314

本、科学絵本など、幅広い内容を子どもたちに提供しました。

その後は戦時統制の影響を受け、次第に絵雑誌の統廃合が進められ、

### 絵雑誌

絵雑誌とは、1900年代に誕生した多色刷りの雑誌で、文に絵が添えられているのではなく、絵を中心とした構成が特徴でした。最初のカラー絵雑誌は、明治37(1904)年に大阪で創刊された『お伽絵解』

当時の『キンダーブック』は『ミックニノコドモ』、学年別雑誌『幼稚園』は『ツヨイコヨイコ』というように、戦争の影響を感じさせる名称へと改題される動きもありました。

2 『はじめて学ぶ日本の絵本史』1 鳥越信編  
ミネルヴァ書房 2001年 【KC0511-G00】  
3 同右

## 第4部

# 現代の絵本

⑮ 『スーホの白い馬：モンゴル民話』  
【Y17-268】  
大塚勇三 再話 赤羽末吉 絵  
福音館書店 1967



⑰ 『でんしゃえほん』【Y17-N00-408】  
井上洋介【著】  
ビリケン出版 2000



⑯ 『キャベツくん』【Y17-7209】  
長新太文・絵  
文研出版 1980

昭和20(1945)年、第二次世界大戦が終わりました。出版界も壊滅的な状態になりましたが、自由と民主主義という新しい価値観のもとに再出発します。昭和24(1949)年まではGHQによる検閲があり、また、戦後しばらくは仙花紙と呼ばれる粗悪な紙しか手に入りませんでした。そんな状況下でも、編集者・研究者・翻訳者たちは、新しい日本の絵本を作り出そうと模索します。

1950年代頃になると、赤羽末吉やいわさきちひろに代表されるような、文も絵も両方手掛ける新たな絵本作家が現れます。↓資料⑮

高度経済成長や第二次ベビーブームを背景に絵本の年間出版点数が伸びた1960年代から1970年代は、日本の絵本の黄金期と言われる。経済的に社会が安定すると共に、各作家・画家の個性も一段と発揮されるようになり、さまざまなジャンルが誕生します。絵だけで物語やテーマが展開し、画面中に文字が書かれていない「文字なし絵本」、長新太や井上洋介などが新たに切り開いた、独特のユーモアで展開する「ナセンス絵本」という分野も見られるようになりました。↓資料⑯⑰

扱われるテーマにおけるタブーも次第に取り払われ、社会問題や死といった題材が取り上げられるようにもなりました。

1980年代に入ると、描かれるテーマは一層多様化し、戦争やいじめ、公害などにも目を向けたノンフィクション絵本が登場します。また、より芸術的な作品も現れてきたことで絵本をアートと捉える見方も生まれ、読者層が広がりました。↓資料⑱⑲

その後、少子化やゲーム・アニメ・漫画などの普及により子どもの活字離れが語られるようになった一方、平成12年が「子ども読書年」として制定されたことを契機として、各地で読書推進活動に関する取組みが活





⑳ 『ラーメンちゃん』【Y17-N12-J428】  
長谷川義史 作  
絵本館 2011

作者の長谷川義史が、宮城県石巻の子どもたちに届けた絵本です。ラーメンちゃんが「なんとか なんとー」「しなちーく よろちーく」と元気を与えてくれます。



⑲ 『ねこのシジミ』【Y18-12026】  
和田誠 作  
ほるぷ出版 1996



⑱ 『ユックリとジヨジョニ』【Y18-5484】  
荒井良二 作  
ほるぷ出版 1991

展示会場では、本稿で紹介した以外にも含め約270点の資料により、詳しく日本の絵本の歩みをご紹介しています。

また、本のミュージアムに接するラウンジスペースでは、絵巻『絵因果経』、『竹とり物語』、『付喪神記』全体を流れるように見られるデジタルコンテンツにして紹介されます。展示されている絵巻とあわせて、是非ご覧ください。

国際子ども図書館へのお越しをお待ちしています。

主な参考文献

- 『絵巻』奥平英雄 著 美術出版社 1957  
『はじめて学ぶ日本の絵本史.1』鳥越信 編 ミネルヴァ書房 2001  
『はじめて学ぶ日本の絵本史.2』鳥越信 編 ミネルヴァ書房 2002  
『はじめて学ぶ日本の絵本史.3』鳥越信 編 ミネルヴァ書房 2002  
『ちりめん本のすべて：明治の欧文挿絵本』石澤小枝子 著 三弥井書店 2004  
『魅力の奈良絵本・絵巻』石川透 編 三弥井書店 2006  
『絵本の事典』中川素子, 吉田新一, 石井光恵, 佐藤博一 編 朝倉書店 2011

発化していきました。自治体から赤ちゃんに絵本を手渡す「ブックスタート」への展開も見られ、赤ちゃん絵本ブームともいえる現象が起きました。

そして、平成23年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故は、絵本の世界をも揺り動かししました。現実と向き合う作品もあれば、子どもたちに元気を与える作品、何気ない日常の大切さを描いた作品などが出版され、今現在もさまざまな形で影響を及ぼしています。↓資料⑳



## 国際子ども図書館の さまざまな顔



4月に就職後、国際子ども図書館に配属されて、早くも7カ月以上が経とうとしています。企画協力課広報係の仕事は、取材や見学ツアー、HP、メルマガジン、パンフレット等を通して国際子ども図書館のことを広く知ってもらうことです。

当初は、講演会やイベントの決まった情報を外部に発信することと単純に思っていました。慣れてくると、色々と考えることが増えてきました。

その一つが、さまざまな側面を持ち、利用者の目的も求めるサービスも多様である国際子ども図書館の、どのような姿を発信していくか、ということ。

来館者には、子どものへやに絵本を見に来る親子、調べものの部屋を訪れる修学旅行中の中高生、児童書ギャラリーで子どもの頃に読んだ本を懐かしむシニア世代の方々、児童書研究資料室で海外の児童文学作品を閲覧する研究者もいれば、上野の文化施設をめぐる最中に休憩がてら立ち寄る人もいます。建物の見学が目的でも、帝国図書館の建築に興味がある人、安藤忠雄建築研究所が手掛けた建築に関心がある人、資料を長期保存するための書庫設備につい

て色々と質問をする人など十人十色です。

このようにアピールできる要素が多いことは幸せな一方で、図書館としての一体的なイメージを見失いそうになります。また、この図書館のもつ様々な魅力を自由に発見してもらいたいの、あるストーリーに沿って情報を発信した結果、かえって図書館の利用方法を限定してしまわないか不安になることもあります。

こうして考えに詰まったときは館内を歩いてみることにしています。帝国図書館時代は限られた人しか入れなかった旧貴賓室に響く子どもたちの楽しそうな声を聞き、百年以上前の意匠と現代のガラスを調和させた大階段を登ります。そのようにしていると、明治時代から累積した図書館のさまざまな側面を結びつけているのがこの場所であり、場所自体が人々の想いに応じて変化を遂げていくものであることを実感するのです。この図書館の持つ顔はこれからも増えていくかもしれません。それらを結びつけた一体的なイメージを打ち出せるような広報をしたいと思えます。

(企画協力課広報係 ドルクス)

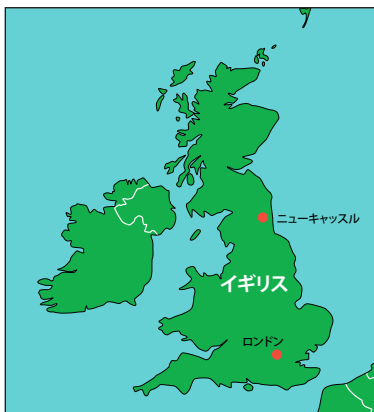


世界図書館紀行

# Seven Stories

The National Centre for Children's Books

清水 茉有子



平成29年3月中旬、私はイギリスへの出張機会に恵まれました。ブックフェアに参加したり、児童書に関するサービスをしている機関へのヒアリングをしたりして、国際子ども図書館の活動に役立てるためです。滞在中に訪れた機関の一つに、イギリスの児童書関連資料を収集・保存しているセブン・ストーリーズがありました。図書館ではありませんが、とても魅力的な場所だったので、今回は「世界図書館紀行」シリーズの番外編としてご紹介したいと思います。



エントランスがあるのは3階になっています。外壁には、"once upon a time" や "into the deep dark wood" などの、ストーリーの中でよく用いられるフレーズがイラストとともに。



案内役のローズ・モックフォードさんに連れられて最初に入った6階のラーニング・スペースでは、いきなり巨大なトラが出迎えてくれました。これは、ジュディス・カーの作品に登場するトラで、以前彼女の展示会を開催したときに使われたものです。



## seven stories National Centre for Children's Books

セブン・ストーリーズのビジター・センター。7階建てで、セブン・ストーリーズという名前の由来にもなっています。

セブン・ストーリーズは、イングランドの北東部に位置するニューキャッスルにある施設で、1930年代から現在まで、250人以上の作家や画家による原稿や原画など、様々な資料を所蔵しています。イギリス児童文学のアーカイブ施設として、とても重要な役割を担っています。

セブン・ストーリーズが正式にオープンしたのは2005年ですが、設立自体は1996年に遡ります。1990年代、原稿・原画などが海外のコレクターらの手に渡るケースが増え、児童文学作家・画家の間には、自身の原稿・原画などの散逸に対する懸念が広がっていました。こうした資料を文化

遺産として認識すると同時に、それらを保護していくための場所が求められ、誕生したのがセブン・ストーリーズでした。

所蔵コレクションには、作家のアイディアを記したノートや手書きのメモもありますし、編集者の指摘が書き込まれた原稿もあります。画家に関する資料であれば、絵本になる前の原画から、イラストの中のこの部分はインクで、この部分は画用紙を何パターンも重ね合わせて、というような、表現の技術がわかる資料もあります。こうした資料によって、作者がどのようにしてそれを生み出したかの創作過程を保存し、伝えることができます。

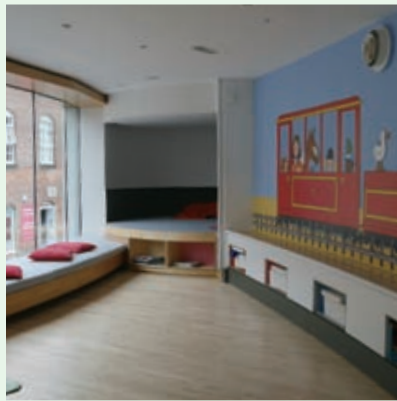
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1



(上) 7階のアティック（屋根裏）。おはなし会などのイベントが行われます。  
(左上) 子どもたちが服装も含めてその世界観に入り込めるように、コスチュームも用意されています。  
(左下) 話し手は大きなイスに座って。



2階や3階にカフェやブックショップもあります。訪問時には、開催中の展示会「Bears!」にあわせ、カフェのテーブルの上にはクマのぬいぐるみが。



小さな子ども向けの4階の部屋です。列車のイラストが壁一面に描かれています。



6階にもギャラリーが、こちらでは、規模が小さめで会期も短い展示会が開催されます。



(右) 1階のラボ。壁紙は、セブン・ストーリーズ所蔵の手書き原稿などがプリントされたものになっています。(上) 1階のスタジオ。ワークショップに使われるため、部屋自体も賑やかなデザイン。





4階ギャラリーの展示会「Michael Morpurgo: A Lifetime in Stories」

## ワークショップに参加

今回の訪問では、ビジター・センターにやって来た子どもたちが参加する体験訪問に同行し、セブンス・ストーリーズで行われている活動を実体験させてもらいました。私が同行したのは、日本の学年で言うと小学校4年生にあたる子どもたちです。ストーリー・キャッチャーと呼ばれる職員に率いられて、前半の1時間は4階のギャラリーで、後半の1時間は、1階にあるスタジオでワークショップに取り組みます。

## 作品の世界・背景に入り込む

4階のギャラリーでは、イギリスの著名な児童文学作家マイケル・モーパゴに関する展示会「Michael Morpurgo: A Lifetime in Stories」が行われていました。モーパゴは、映画化もされた「War Horse」の作者としても知られています<sup>(1)</sup>。

ギャラリーには、作家本人から寄贈されたアイデアノートや手書き原稿、挿絵を担当した画家のイラストが数多く展示されるほ

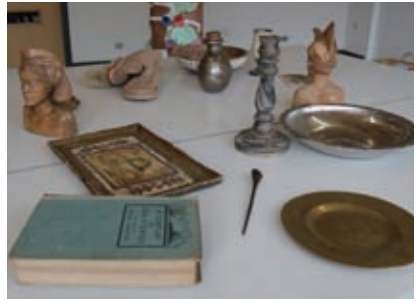
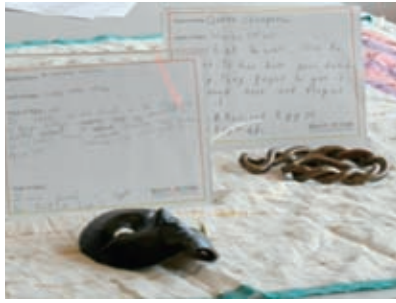
か、作品に登場する生き物や象徴的なものなど、作品の世界観を再現した立体的な展示物がたくさんありました。また、作品に込められたモーパゴの考えや信念、執筆背景なども掲げられていて、作者の頭の中まで思いを巡らすことができます。

子どもたちは、スペシャルタスクという課題を通して、モーパゴの作品を体験していきます。例えば、ギャラリー内のどこか一部分をパズルのピース型にプリントしたものを使って、あてはまる場所を探し当てるといったタスクがありました。子どもたちは、ピースに描かれたわずかな文字や絵柄を頼りに、宝探しをしているかのように取り組んでいました。

戦争や紛争、平和について思考を促すようなタスクもありました。紛争地域のパレスチナを舞台に、カイト(凧)に平和を意味する言葉を書き込み、風にのせて分離壁の向こう側にいるユダヤ人の少女に届ける少年が登場する「The kites are flying」という作品があります<sup>(2)</sup>。子どもたちは、このストーリーの説明を受けた後、自分ならどのような言葉を書くかを考



ワークショップの様子



え、発言してきます。「Respect」  
「Kindness」「Peaceful」「Joy」などの言葉が、作品になぞらえて展示会場内のカイトの形をした黒板に記されました。

### キュレーター体験

体験訪問の後半、1階にあるスタジオに場所を移して子どもたちが取り組んだのは、アーティフィクション (ArtとFictionをあわせた造語) というワークショップでした。大きなテーブルに掛けられていたクロスをめくると、セピア色をした写真やポストカード、古書、器、ベル、箱、置物、ムートンブーツなどなど、アンティーク調のものがたくさん並べられていました。2、3人のグループになった子どもたちはそれらの中から一つを選び、キュレーター(学芸員)になったつもりで、ものの自体の名前、歴史、起源、所蔵している美術館・博物館の名前などを創作していきます。途中、なかなかアイデアが浮かばないグループには、「どうしてこんな形、色をしているか」、「どこで発見されたのか」などの、考えのヒントが提

供されていきました。モーバゴの展示を見たときのことを思い出しながら、目の前の「もの」の背景にあるストーリーを想像してみようアドバイスされている様子が印象的でした。

最後には、グループごとにそれぞれが考えた内容を披露します。エジプトで発見された、古い寺院で見つかった、といった設定や、このように使えばヘアアクセサリー、このように使えばネックレス、と使い方を考えたグループなど、いくつもの視点から子どもたちの想像力が広がりました。

このワークショップでは、頭の中にあるアイデアを書き出して、それを繰り返して形にしていくという創造的なプロセスを体験できるようにしています。ギャラリーで創作の過程や背景を学んだ後に行うことで、より効果的なプログラムとなっています。

### 触れる展示、再現する展示

館内には5階にもギャラリーがあります。そこで行われているのは、絵本や物語に登場する様々なクマをテーマにした展示会

「Bears!」です。シニア・キュレーターのジル・レニーさんが紹介してくれました。床にはクマの小さな足跡が描かれていて、それを追いかけるようにしてギャラリー内を回れるようになっています。

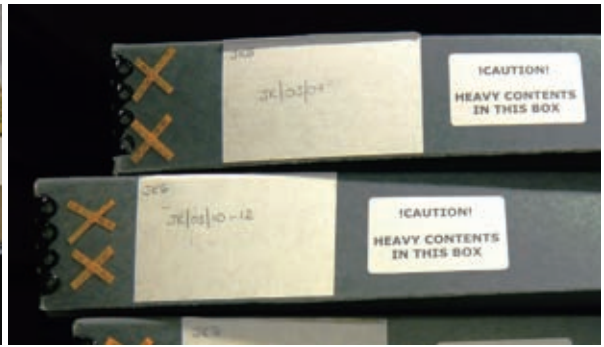
クマのプーさんとして世界的にも有名な「Winnie-the-Pooh」を筆頭に、イギリス児童文学の様々な作品とその中に登場するクマが次々現れます。「The bear under the stairs」という作品はギャラリー内に作られた階段に、「Can't you sleep, Little Bear?」という作品は子ども部屋のベッドまわりをイメージした一角に、と絵本の中のシーンを再現した展示も魅力的でした。また、ギャラリーのいたるところに、クマのオットー(「Otto the book bear」)も出現し、その場にいるだけでわくわくするような空間でした。

より小さい子どもも楽しめるよう意識されていて、ふわふわの耳がついたクマのかぶりものやコスチューム、低い位置に取り付けられたパネルもありました。世界の実際のクマを紹介するパネルでは、いろいろな種類のクマの毛の質感を触って楽しめるように工夫

5階ギャラリーの展示会「Bears!」



- (1) 日本語版は『戦火の馬』(評論社、2012年、当館請求記号: Y9-N12-J55)
- (2) 日本語版は『カイト: パレスチナの風に希望をのせて』(あかね書房、2011年、当館請求記号: Y9-N11-J204)



資料保存施設の所蔵コレクション

がされていて、子どもたちだけでなく、私も思わずもともと触って楽しんでしまいました。

羨ましくなるような場所にいるレニーさんですが、日本のキャラクターについて高く評価してくれているようで、話のきっかけになればと持っていた「リラックマ」のぬいぐるみを見せると、「やっぱり日本のキャラクターはかわいい！」と、ねこのキャラクターを集める日本のスマートフォンアプリ「ねこあつめ」に夢中になっているとの話をしてくれました。

### 資料の保存

資料保存施設は、ビクター・センターから少し離れ、ニューキャッスル市内を横断するように流れるティン川の反対側にあります。2週間以上前に連絡を取れば訪問可能で、希望するコレクションを見ることもできるそうです。ここでは、主にクリス・マツキーさんに案内をしていただきました。セブン・ストーリーズで保存している資料の大部分は原稿や原画といった散逸しやすい一枚ものの紙資料です。そのため、基本

的には専用の保存箱に収納されて書庫の中に置かれています。コレクションには識別番号が付与されていて、作家や画家の名前の頭文字から取られています。本ページ右上の写真の識別番号はジュディ・カーのコレクションに付与されているものです。Judith Kerrの頭文字「JK」から始まり、それに続く数字によって、資料の内訳が分かるようになっていくようです。

他にも、ルーシー・カズンズやエマ・チチェスター・クラーク、レベッカ・コップ、キャサリン・ストーリーなど、いずれもイギリスを代表する作家、画家のコレクションの一部を見せていただきました。実際に出版された本と見比べながら、様々な段階の原稿・原画を間近で見ることができて、とても貴重な体験になりました。さらにマツキーさんは、私が日本からの来訪者ということを考慮してくださったのでしょうか、宮崎駿が影響を受けたとされているロバート・ウエストールのコレクションも紹介してくれました。ご自身も思い入れのある作家のようで、いつかセブン・ストーリーズと宮崎駿とのコラボレーションでイベ

ントを開催できたらと夢見ていると話してくださいました。また、マツキーさん以外にも、書庫環境をチェックする方、展示会の展示資料一式を複数機関に巡回させる「展示会ツアー」を管理する方など、多くの方が作業の合間に話をしてください、あつという間の滞在でした。

首都ロンドンからは少し時間がかかる場所にあるのですが、イギリスに行く機会がありましたら、ぜひ皆さんも訪れてみてください。



ニューキャッスル城



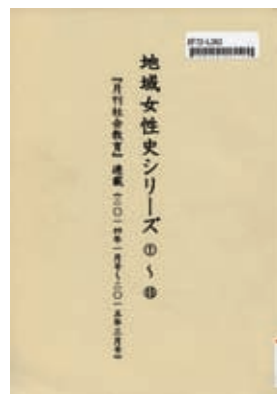
ニューキャッスル市内



# 本屋に

# ない

# 本



## 地域女性史シリーズ①～⑮

『月刊社会教育』連載(2014年1月号-2015年3月号)

地域女性史研究会 編・刊  
2015.9 64p 26cm  
<請求記号 EF72-L363>

昨年公開されたアニメーション映画『この世界の片隅に』は、18歳で広島から呉に嫁いだ女性・すずの視点から戦時下の暮らしを描き、多くの観客の共感をよんだ。配給が不足し空襲が迫るなかでも、毎日の献立を考え、隣近所と協力しあいながら懸命に生きる。映画のなかで細部まで描かれたすずの暮らしは、政治・経済や戦争を中心とする従来の歴史の記述からはこぼれ落ちてしまいう女性たちの姿や暮らしと重なってみえる。

本書は、平成26年から平成27年にかけて雑誌『月刊社会教育』に連載された「地域女性史シリーズ」をまとめたものである。地域女性史研究のあゆみを概観する「地域に根ざして、祖母・母・娘たちのあゆみを綴る」、全国各地の14

の地域女性史研究会の担い手による活動紹介の全15回で構成されている。

地域女性史研究とは、歴史の陰に埋もれた女性たちに焦点をあて地域の歴史をひもとく活動である。地域女性史研究会のさががけは昭和31(1956)年に設立された愛媛の女性史サークルであるとされる。

本書によれば、地域女性史研究は1970年代以降、国際的なウーマンリブ運動や国際婦人年の制定を背景として急速に広がり、今日では100を越す研究会が全国に存在している。北は北海道の「札幌女性史研究会」から南は「沖縄女性史を考える会」まで、本書にはそれぞれ特色のある研究会が登場するが、共通するのは資料に基づく女性史年表の作成、地域に暮らし先人女性の聞き書きを中心に活動し、その成果を本にまとめていることである。

本書を通覧すると、研究会の担い手ほとんどが専門職の研究者ではない女性たちであることに気づく。地域に根ざして生きた女性たちのあゆみを明らかにしたい、その一心で活動を続けている。各報告からは、文字による資料には残らなかった女性たちの足跡を求めて、長い年月をかけて聞き書きに取り組む姿が伝わってくる。話し合いながら成果をまとめる楽しさだけでなく、聞き書きで得た証言をもとに地域の歴史をどのように捉えなおすか、差別や戦争責任の問題にどのように向き合うかという苦悩や葛藤、意識の変化が語られていることもまた本

書の魅力だ。多様な女性たちの声を拾い上げ、自治体史や地域史のありかたに問いを投げかける地域女性史研究の活動の醍醐味を、研究会の担い手の言葉を通して知ることができる貴重な一冊である。

また、本書に関連する資料として、『地域女性史文献目録』がある。平成14年に国・都道府県の女性政策担当部署と各地の女性史研究会に対して行ったアンケート調査をもとに作成された目録で、51編の方法論・研究史、1276編の地域別文献、445点の研究会の機関誌が収録されている。

あなたが暮らし地域にはどのような女性たちの歴史があるだろうか。本書と合わせてぜひ手にとってみてほしい。

(高橋 奈緒美)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

# NDL Topics

## システムリニューアルに関するお知らせ(2)

### サービスの休止のお知らせ

平成30年1月に予定しているシステム切替えのため、平成29年12月から一部のサービスを休止いたします。

申込みを休止するサービス

- 遠隔複写 (一般利用者・図書館等向け)
- 取寄せ閲覧 (一般利用者向け)
- 閲覧予約 (関西館) (一般利用者向け)
- 図書館間貸出し (図書館等向け)
- 文書レファレンス (図書館等向け)

また、平成29年12月に予定している国立国会図書館所蔵検索・申込システム (NDL・OPAC) のサービス終了から、国立国会図書館検索・申込オンラインサービス (国立国会図書館オンライン) の開始までの間、一時的に登録利用者情報の変更 (失効日の更新を含む) ができなくなります。この期間中に登録利用者情報の失効日を迎える方で、失効日を更新する場合は、NDL・OPACのサービス終了前までに手続きを行ってください。

登録利用者情報の変更は、平成30年1月から国立国会図書館オンラインで行うことができます。

詳しくは、当館ホームページの「平成30年1月システムリニューアルのお知らせ」をご覧ください。  
利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

## 新刊案内

### 外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第273号

アメリカの統一家族法仲裁法  
カナダ安全情報共有法

— 情報活動とプライバシーをめぐる問題 —

欧州国境沿岸警備隊規則

— E U の域外国境管理制度をめぐる動向 —

韓国における不正腐敗防止対策 — 「不正請託及び金

品等の收受の禁止に関する法律」を中心に —

中国の映画産業促進法



A4 111頁 季刊 1,800円 (税別)  
発売 日本図書館協会  
ISBN 978-4-87582-803-7

### レファレンス 799号

オーストラリアの議会制度

起業促進・ベンチャー育成における課題

— 労働市場柔軟化とM&A円滑化が鍵 —

スイスの新しい安定供給対策法 (備蓄法)

— 2016年6月17日の経済に関する国の供給に関する連邦法 — (資料)



A4 83頁 月刊 1,000円 (税別)  
発売 日本図書館協会

### レファレンス 800号

『レファレンス』第800号刊行にあたって

『レファレンス』のあゆみ

— 第701号から第800号まで —

フランスにおける教育改革

— コレージュ (中学校) の改革を中心に —

地方を代表する議院の意義 — 憲法改正提言及び諸外

国の憲法規定を素材として —

駅ホームの安全確保 — 現状と対策 —

教育勅語の成立から終戦後の国会決議に至る経緯

男性の育児休業の取得促進に関する施策の国際比較

— 日・米・英・独・仏・スウェーデン・ノルウェー — (資料)

総索引 (第701〜800号)



A4 164頁 月刊 1,000円 (税別)  
発売 日本図書館協会

### カレントアウェアネス 333号

小さな図書館の挑戦

— 「猫ノ図書館」開設とねこ館長 —

フランス国立図書館の電子図書館 Gallica の20年

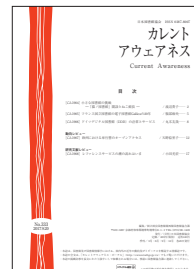
ドイツデジタル図書館 (DDB) の沿革とサービス

△ 動向レビュー

欧州における単行書のオープンアクセス

# NDL Topics

研究文献レビュー  
レファレンスサービスの潮の流れはいま



A4 24頁 季刊 400円(税別)  
発売 日本図書館協会

平成28年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録  
「子どもに本を手渡すために」児童文学基礎講座」  
児童文学とは何かということでもむずかしい問題  
日本の児童文学 — 「声」の時代、「声」のわかれ  
英米を中心とした外国の児童文学 — その歴史と概要  
絵本を学ぶ、その序章から — 絵本とは何か  
国立国会図書館が提供するデータベース紹介  
— 子どもの本を探すには



A4 102頁 年刊 1,700円(税別)  
発売 日本図書館協会  
ISBN 978-4-87582-802-0

入手のお問い合わせ  
日本図書館協会  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
電話 03(3523)0812

## 第9回科学技術情報整備審議会

7月25日、東京本館において、第9回科学技術情報整備審議会が開催され、審議会委員9名、当館から館長ほか14名が出席しました。第四期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画の進捗状況と、我が国におけるデジタルアーカイブ構築に向けた国立国会図書館の果たす役割について当館から報告した後、質疑および懇談が行われました。

懇談では、まず、3人の委員から懇談テーマに関連した報告が行われ、その後、研究データと図書館との関わりの方や、我が国におけるデジタルコンテンツの長期保存の在り方・課題について委員の間で議論が行われました。



審議会に関する情報は、国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>審議会・科学技術情報整備審議会 (<http://www.ndl.go.jp/aboutus/tech/council/>) に掲載しています。

## 科学技術情報整備審議会委員名簿

(五十音順 敬称略) (平成29年7月25日現在)

- |       |        |   |
|-------|--------|---|
| 委員長   | 西尾 章治郎 | 大阪大学総長                                  |
| 委員長代理 | 竹内 比呂也 | 千葉大学副学長                                 |
| 委員    | 石田 徹   | 日本商工会議所専務理事                             |
|       | 板倉 康洋  | 文部科学省大臣官房審議官(研究振興局担当)                   |
|       | 喜連川 優  | 情報・システム研究機構国立情報学研究所長<br>/ 東京大学生産技術研究所教授 |
|       | 倉田 敬子  | 慶應義塾大学文学部教授                             |
|       | 児玉 敏雄  | 日本原子力研究開発機構理事                           |
|       | 佐藤 義則  | 東北学院大学文学部教授                             |
|       | 戸山 芳昭  | 国際医学情報センター理事                            |
|       | 濱口 道成  | 科学技術振興機構理事                              |
|       | 藤垣 裕子  | 東京大学大学院総合文化研究科副研究科長・<br>教養学部副学部長        |
|       | 村山 泰啓  | 情報通信研究機構戦略的プログラムオフィス<br>研究統括            |



#5 東京本館南側の黄葉

『水野年方新聞小説挿絵 67』 画/水野年方

『女難』(『週刊新潮』新潮社 1959年11月2日) 画/志村立美

# 演

# 劇

# の

明治の新聞から平成のスマートフォン

館西	本館	東京
11月17日	10月10日	10月10日
[金]	[火]	[火]
12月9日	11月11日	11月11日
[土]	[土]	[土]

※約90点を展示!!

【東京会場】国立国会図書館東京本館 新館展示室  
期間 平成29年10月10日(火)~11月11日(土)  
10:00~19:00(土曜日は18:00まで)(日曜・祝日・第三水曜日は休館)  
※一部の資料の展示替え、展示箇所替えを行います。

【関西会場】国立国会図書館関西館 大会議室  
期間 平成29年11月17日(金)~12月9日(土)  
10:00~18:00(日曜・祝日は休館。ただし11月19日(日)のみ10:00~16:00開催)  
※東京会場のみ展示する資料(3点)があります。

無  
入  
料  
場

# 11

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2017.11

NO.679

NOVEMBER  
2017

## CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>  
An extraordinary man — Lenin and the Russian Revolution, as seen by a man who would later become the prime minister of Japan
- 04 Materials newly available in the Modern Japanese Political History Materials Room
- 12 Browsing library materials—A look at documents from medieval Japan, Part 5  
“There’s something wrong with my eyes” — Birth of the custom of carved seals?
- 15 A History of Japanese Picture Books — From picture scrolls to contemporary picture books
- 25 Travel writing on world libraries:  
Seven Stories: The National Centre for Children’s Books
- 24 <Tidbits of information on NDL>  
The many faces of the International Library of Children’s Literature
- 31 <Books not commercially available>  
*Chiiki joseishi shirīzu*
- 32 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

平成 29 年 11 月号 (No.679)

平成 29 年 11 月 1 日発行

発行所 国立国会図書館

編集者 秋山勉

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
FAX 03 (3597) 5617  
E-mail geppo@ndl.go.jp  
http://www.ndl.go.jp/

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2017.11

 国立国会図書館  
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

六